

備中松山城 歴史年表

年号(西暦)	関係事項
延応 2 年(1240年)	あき ば さぶろうしげのぶ 秋庭三郎重信が大松山に築城する。備中松山城のはじまり。
元弘年間 (1331年～1333年)	たかはしむねやす 大松山に高橋宗康、小松山に弟の大五郎が在城。 地名を「高橋」から「松山」に改める。
永禄 4 年(1561年)	みむらいえちか 永禄2年(1559)から成羽鶴首城主の三村家親が毛利氏の加勢で備中松山城を攻め、城主の庄高資を追い払う。
永禄 9 年(1566年)	う き た なおいえ 三村家親が美作国興禅寺にて、備前の宇喜多直家の刺客に襲われ死去(銃による暗殺)。
永禄10年(1567年)	み むらもとちか 三村元親が父の仇討として、宇喜多直家を攻めるが大敗。 庄高資が宇喜多氏の加勢を得て、一時的に備中松山城を奪還する。
元龜 2 年(1571年)	三村元親が毛利氏の加勢によって備中松山城を奪回し、備中の中・北部を支配する。
天正 2 年(1574年)	毛利氏が宇喜多氏と和睦したため、三村元親は毛利氏から離反し、織田家と結ぶ。そのため、毛利・宇喜多両軍の追討を受け、備中松山城に籠城し(備中兵乱)、翌年に元親は自害する。
天正 8 年(1580年)	もう りてもと 毛利輝元、備中松山城普請を指示し入城する。
慶長 5 年(1600年)	こ ぼりまさつぐ 関ヶ原の戦いで西軍総大将であった毛利輝元が敗北し、代わって備中国奉行として小堀正次が備中松山城を預かる。
慶長 9 年(1604年)	こ ぼりまさかず えんしゅう 小堀政一(遠州)、父正次の急死により家督を継ぐ。
慶長13年(1608年)	この頃、遠州が備中松山城および御根小屋の修築を行う。
寛永18年(1641年)	みず の かつとし 小堀家のあと池田家が入城するも跡継ぎができず、そのため水野勝俊が一時城地を預かる。
寛永19年(1642年)	みずのや かつたか 水谷勝隆が備中成羽から5万石で移る。
寛文 4 年(1664年)	みずのや かつむね 水谷勝宗が父勝隆の死により家督を継ぐ。
天和元年(1680年)	備中松山城と御根小屋の大修築が始まる。(天和3年1683年完成)
元禄 6 年(1693年)	元禄2年(1692)に勝宗の死により、家督を継いだ水谷勝美が死去。無嗣断絶となり、翌年、播磨赤穂藩主浅野長矩が一時城地を預かる。大石内蔵助が城代として備中松山城に1年滞在する。
延享元年(1744年)	いたくら かつすみ 安藤氏、石川氏が城主となった後、板倉勝澄が伊勢亀山から5万石で備中松山城へ移る。その後、板倉家の統治が7代続く。
寛政 5 年(1793年)	御根小屋馬場に八重籬神社を創建する。(1830年に現在地に移転する。)
嘉永 2 年(1849年)	いたくら かつきよ 板倉勝静が、漢学者山田方谷を登用し藩政改革を行う。
慶応 4 年(1868年)	板倉勝静が15代将軍徳川慶喜の老中首座であることから、備中松山藩は幕府軍として戊辰戦争を戦う。 岡山藩主池田茂政が明治新政府の命により、松山征伐を行う。 備中松山城は無血開城となり、備前岡山藩の支配となる。
明治 2 年(1869年)	地名を「松山」から「高梁」へ改称する。
昭和 2 年(1927年)	旧制高梁中学校に赴任した信野友春によって、備中松山城の調査が行われ、調査結果を「備中松山城及其城下」として刊行。 刊行によって、修復の機運が高まる。
昭和 3 年(1928年)	高梁町によって二重櫓の修理が竣工する。
昭和14年(1939年)	高梁町が天守の解体修理、土堀の補修に着手。 翌年竣工する。(昭和の大改修)
昭和32年(1957年)	天守の部分修理、二重櫓・三の平櫓東土堀の解体修理に着手。 35年に竣工。(昭和の大改修)
平成 6 年(1994年)	本丸の復原に着手する。9年に竣工。
平成12年(2000年)	天守・二重櫓の部分修理に着手する。14年に竣工。(平成の大改修)

周辺で見られる主な野鳥



メジロ

分類:スズメ目 メジロ科 メジロ属
体長:約12cm
特徴:目の周りが白い、常緑広葉樹林を好む



ヤマガラ

分類:スズメ目 シジュウカラ科 シジュウカラ属
体長:約14cm
特徴:胸から腹にかけて赤味のある茶色



ホトトギス

分類:カッコウ目 カッコウ科 カッコウ属
体長:約28cm
特徴:腹のしま模様



シジュウカラ

分類:スズメ目 シジュウカラ科 シジュウカラ属
体長:約14cm
特徴:白い頬、胸から腹にかけてのネクタイ模様



ウグイス

分類:スズメ目 ウグイス科 ウグイス属
体長:約15cm
特徴:背中はおリーブ褐色、腹面は白色



コゲラ

分類:キツツキ目 キツツキ科 アカゲラ属
体長:約15cm
特徴:シジュウカラ科の群れの後に1～2羽でいることがある。

周辺で見られる主な植物



アベマキ

分類:ブナ目 ブナ科 コナラ属
特徴:葉の裏には星状毛があり、白っぽく見える。
花は4～5月頃に咲き、9～10月頃に実が熟す。実は殻斗に包まれており楕円形のものが多い。
天神の丸跡付近に、森の巨人たち100選に選ばれたアベマキがある。



ヤマザクラ

分類:バラ目 バラ科 サクラ属
特徴:日本の野生の桜の代表的な種で、和歌にも数多く詠まれている。
サクラの間では寿命が長く、ときに樹高30mを超える大木になる。
花は4月頃に咲く。



コバノミツバツツジ

分類:ツツジ目 ツツジ科 ツツジ属
特徴:「小葉の三つ葉つつじ」が名前の由来。高さ数mになる落葉の低木。ほぼ落葉し、3～4月ごろに紫から淡紫色の花を咲かせる。



コナラ

分類:ブナ目 ブナ科 コナラ属
特徴:葉は長楕円型で縁にとがった部分がある。
花は4～5月に咲き、10月頃に実が熟す。落葉樹だが、秋に葉が枯れた時点では葉が落ちず、いつまでも茶色の樹冠をみせる。
春に新葉が展開するころに、落葉が起きる。



ワレモコウ

分類:バラ目 バラ科 ワレモコウ属
特徴:暗赤色の丸い団子のような花穂をつける。
花は、花穂の上の方から下の方へ順に開花していく。花は7～8月ごろに咲く。
根にタンニンが多く含まれており、止血効果がある。



コウヤボウキ

分類:キク目 キク科 コウヤボウキ属
特徴:高野山で茎を束ねて簞の材料としたのが名前の由来。1年目の枝につく葉は幅広い卵型で、2年目の枝につく葉は細長い。花は1年目の枝に咲き、白から淡紅色。開花期は10月ごろ。